NO.043

ＦＡＳ通信

平成１８年１１月号
株式会社福地建装
北斗市中野通３２４番地
TEL0138-73-5558

◆◇　家の寿命は孫子の代まで永遠に　◆◇

建設白書によると、日本の住宅寿命は先進国の中で最も短い“30 年”と言われています。現在、普通に建築されている住宅が 30 年後には粗大ゴミと化す事になります。その現実を意識して家を建築している方がどれだけおられるでしょうか。ほとんどの建主さんも住宅会社も、今、建てている家の外観・間取り・内装・設備などに汲々として、30 年も先など考えも及ばないでいるのが現実です。しかし、50 歳で家を建築して 30 年経つと、80 歳となります。80 歳になる 30 年後の建て替えをしっかり意識しなければなりません。

■家は生命財産を守る■

30 年と言うと、遥か遠い将来のように思えますが、30 年前を思い出してみますと、捉え方によってはアッと言う間でもあります。子供の成長期に時間と気力を費やし、やっと自分の現在を実感した時、年齢はすでに 50 歳と言うのが実情ではないでしょうか。

家は、住む人の生命、財産を守りつつ、安心で信頼できる居住空間で在り続けなければなりません。しかし、この 30 年間には地震や台風などの自然災害にも見舞われる事でしょう。家は少なくとも、このような災害がから生命財産を守るだけの確固たるたくましさが必要です。

ところが現実には自然災害どころか、通常の日常生活でストレスが増幅するような住宅が蔓延しているのです。

■家はライフスタイルとともに■

戦前の建物は 80 年・100 年・200 年という住宅寿命が普通でしたが、大量生産、大量消費の時代に入り、住宅も一気に消耗品と化してしまったものと思われます。

確かに家族構成の変化やライフスタイルの変更に伴い、改装・改築などが必要となるのですが、昔は、その都度大工さんが手を加えて参りました。解体して新築するに及ばなかったのです。現在の住宅は壁構造・軽量鉄骨・パネル構造などで増改築が思うに任せない住宅が多くなっているのも要因の一つです。日本古来の軸組み工法は増改築が自由に出来るようになっております。また、木材を空気にさらすなどして腐朽菌が発生する事を抑えて、住む人々の健康管理も出来るようになっておりました。

■日本の気候風土に合わせて■

日本は、高温多湿の夏と低温低湿の矛盾した気候が特徴であり、家を長持ちさせるには大変に厳しい自然環境なのです。それでも昔の家が 100 年以上の寿命を維持したのは先人達の家づくりに対する様々な工夫がありました。短絡的な高気密・高断熱という概念だけで家を造るべきでありません。先人たちが培った技能・技術は、日本全国に分布した萱葺屋根の家に秘められておりました。

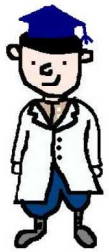
ファースの家は茅葺屋根の思想を活かして 100 年以上も充分に快適に居住できる事を諸条件に仕様が組み合うようになっております。事実、90 年間は大規模改修を必要としない事が公的に認められた「次世代高耐久認定」を交付されております。

幸の知恵袋

～お酒と入浴の関係～

酔っ払ってお風呂に入るととっても危険なんだよ。これは、アルコールの作用で血液の循環が促されて、心臓への負担が増大している時に、入浴でさらに心臓に負担を掛けるからなんだよ。また、アルコールで大脳の働きが鈍って、入浴による血行の変化に上手に順応できなくなって、心臓発作などを起こしかねないんだよ。

もし、お風呂に入るなら、ほろ酔い加減で飲んでから 2 時間くらいたってからがいいんだよ。



・酔って入浴・・・・・× 心臓に負担
・ほろ酔い加減・・・○ 胸から下だけつかる
・二日酔いの朝・・・○ 回復に効果的

★ ファースの家公式ホームページ http://www.fas-21.com/